

## 比喩

比喩とはある事柄を似たところの別の事柄で表すこと。

1年生の国語を覗くと、黒板に比喩について記述されていました。日常の会話の中でも、気が付くと「○○のようだ」と比喩をつかっています。

先日、「うだるような暑さとなります。熱中症に注意しましょう。」と天気予報のコーナーで気象予報士が訴えていました。比喩とは、その内容を深め、あるいは装飾し、聴き手に対しイメージを膨らませるような表現であると考えていました。例えば「蝶のように舞い、蜂のように刺す」は伝説のプロボクサー モハメド・アリのプレースタイルで軽やかなフットワークで相手を翻弄し、鋭いパンチで仕留める様子を表現しています。この比喩は、彼のボクシングスタイルを的確に捉え修飾します。ところが“うだる”といわれても、内容が深まらないのです。“うだる”を調べてみると、「のぼせること」それでは、“のぼせる”とはどういうこと？調べてみると「頭に血がのぼって、くらくらすること」やっ、修飾のきかけとなる言葉にたどりつきました。となると、もう少し分かりやすい表現で伝えても良いのかもしれない。「おでんのはんぺんに包まれたようなあつさ・・・」あまり適切で素敵な修飾にはなっていないですね。この表現は 用無しです。

この授業では、机を風車のようにしてならべ、リレー音読をしていました。この後、比喩とは何かを考え、この文章の感想を伝えあう形で授業が展開していきました。今年度は“自分の考えを相手に伝える”ことに重点を置いてますから、伝えあう場面を随所に入れております。そこでまた気になってしまいました。“かざぐるまのような”と読む比喩表現ですが、“ふうしゃのよう”とも読むことができます。またまた調べてみると『「ふうしゃ」は風の方で羽根を回転させる装置全般を指すのに対し、「かざぐるま」は主に子供が遊ぶ玩具の風車を指す。』という説明が出てきました。確かに、有名なオランダの風車を「かざぐるま」とはよびません。幼児が吐息で懸命に羽を回そうとする姿に「ふうしゃ」は似合いません。読みを変えるだけでも“風車のように”は印象が異なるものになります。



3年生は修学旅行の準備を続けています。24日には、訪問先の福井市立森田中学校の生徒会と本校の交流委員会で第2回 WEB 会議が開かれました。現地における具体的な交流内容について打ち合わせをしました。清瀬中史上初めて飛行機



を利用します。したがって、飛行機の搭乗までについて学ぶ必要があります。学活において、動画を用いて飛行機の乗り方などを学びました。5日後に修学旅行に出発します。これからの日々、3年生は怒涛のように北陸に向けて動きまわります。“怒涛”とは、またまたまた調べました。「激しくどつと打ち寄せる大波のこと。」なるほど情景が修飾されました。

この“比喩”のホームページを作成するにあたり、久しぶり辞書をひきまくり語彙に広がりがありました。そういえばこの授業の単元名

「比喩で広がる言葉の世界」 でありました。

